

2010

豊中・サンマテオ姉妹都市

提携ニュース



Toyonaka



<http://www.city.toyonaka.osaka.jp/>

San Mateo



<http://www.ci.sanmateo.ca.us/>

豊中・サンマテオ姉妹都市協会
Sister City Association of Toyonaka-San Mateo

第40号

親善使節としてサンマテオ市を訪問しました!

2009年8月14日~20日にかけて「第37回高校生英語弁論大会」の豊中市長賞 荻田航希さんとサンマテオ市長賞 中山翔子さんが親善使節としてサンマテオ市へ派遣されました。

お二人はホームステイを楽しむとともに、今回は豊中市の少年野球チームと合流して、沢山のひと々とふれあい、様々な経験をして帰ってこられました。訪問時の感動を感想文として寄せていただきましたのでご紹介します。



霧の都、サンフランシスコ・・・その空港に中山さんと降り立ったのは、8月14日の昼のことでした。飛行機から見た眺めは日本とは全く違い、切り立った山がなく一面茶色の土地でした。

時差の関係上、14日の午後6時に日本を出発したにも関わらず、現地に着いたのは同じ日の午前11時。まるで、タイムスリップしたかのような感覚で、体内時計も狂いに狂っていて、正直体は疲労困ぱいでした。でも、入国ゲートの向こうで、新しい出会いが待っていると思い、自分を奮い立たせてアメリカ合衆国の地に踏み出しました。ゲートでは、ホストファミリーとビクター岩本さんが出迎えてくれました。チョンマゲのかつらをかぶって登場した僕に、若干拍子抜けしているみたいでしたが笑顔で迎えてくれました。環境が違うというのはすごいものです。入国審査のときはかなり疲労が溜まっていた体も、あの独特な海外の匂いを嗅ぐと、そんな感情が何処かに飛んで行きました。ホストファミリーのホーラーさんは、一家で僕らの名前が書いてある紙を掲げて待っていてくれました。そして早速空港からお昼ご飯にハンバーガーを食べにいきました。空港から車で出



まず感じたことは、全てのものがいわゆる「アメリカンサイズ」なことです。高速道路は片側6車線、見る人見る人全員が日本人二人分

くらい大柄でハンバーガーも超ビッグでした。(ああ、これが噂に聞くアメリカなんだ) と思い、それが、アメリカについての最初に持った感想でした。それから、サンマテオ市長さんに会い、初日からとても濃い一日を過ごしました。ほかにもたくさん思い出話がありますが、その中でも、僕が最も印象に残っているお話を紹介しましょう。

それは、4日目のことです。ホストシスターのクリスティーナの高校に放課後お邪魔した時、彼女の先生の先生だった方と会って話をする機会がありました。教室には、社会だけにガンジーの写真や、アメリカの公民権運動で活躍した人たちの写真などがたくさん貼られていました。その中に、一枚の世界地図がありました。社会の教室なので全く違和感はないはずなのに、少し普通とは違っていました。それは南北が逆さになり、イギリスが中心に書かれていました。僕はどうしてアメリカは北半球なのにこんな地図を貼っているの



か尋ねると、その先生はこう答えました。「いつ誰が、上が北で下が南って決めたいだ？」と。僕はその時あまりの考え方の違いにショックを受けました。そんなこと考えたこともありません。僕はそのときアメリカの思想の自由さ、視点の置き方に感嘆し、感銘を受けました。

僕は今回サンマテオに訪問させていただき、通訳の体験やリトルリーグの観戦など様々な貴重な経験をさせてもらいました。そしてそれらはもちろん一生忘れることのできないものです。

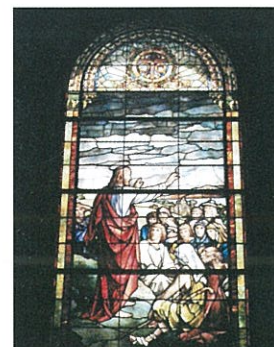


今回私は親善使節として、アメリカのサンマテオ市に派遣されました。飛行機に乗っているときから緊張してホストファミリーの方はどんな人なんだろうとか、うまく話することができるだろうかとかそんなことを考えていました。



しかし、ついしてみるとホストファミリーの皆さんが人生初めてのハグで迎えてくれて、そんな不安は一気に吹き飛んでいきました。すぐに車に乗りアメリカの広い道路を走って、さっそくサンマテオ市長に表敬訪問しました。やはり中も広くて驚きました。市長から素敵なプレゼントもいただきとてもうれしかったです。その後、ホストファミリーのクリスティーナの学校の音楽祭の演奏をききました。しかし飛行機の中で私は一睡もしていなかったので失礼にも、うとうととしてしまい、クリスティーナのトランペットの演奏をしっかりと聞くことができませんでした。その後もホストファミリーの方は私たちをいろんなところに連れて行ってくれました。スタンフォード大学、サンタクルーズ、サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジ、そして沢山の野球場。ホストファミリーのダニーはサンマテオの少年野球に入っているの、豊中の少年野球チームの親善試合を観戦することが多々ありました。サンマテオの少年野球の子どもたちは本当に陽気で、交代のときに流れるBGM

に踊りだしていたのがとても印象的でした。スタンフォード大学ではその広さに驚愕しました。まず門をくぐったところで大きな噴水があり、中に入ると細かい装飾のある建物がいくつもあり本当にきれいでした。教会ではキリストの絵が描いてあるステンドグラスが日の光をすかして、さらにパイオルガンの演奏も合わさり神秘的な雰囲気をかもし出していました。広い敷地内でのびのびと勉強できる学生たちがうらやましいです。サンタクルーズでは蒸気機関車に乗って海沿いまでゆっくりと走りました。風がとても冷たくて、夏に訪問するのに長袖のパーカーを長袖の服の上から着ても震えるくらい寒かったです。しかし普段見ることができない森の中の風景はきれいで感動しました。途中で歴史ある遊園地に立ち寄り、メリーゴーランドやダンプカーに乗りました。ダニーと航希君はジェットコースターにも乗っていました。遊園地自体はそんなに大きくはありませんでしたが、メリーゴーランドやその他のアトラクションには歴史を感じさせ



る雰囲気がありました。帰りには海沿いに車を走らせて灯台に立ち寄りたりして、あきることなく楽しい帰り道でした。

アメリカは本当に広くて道路もホストファミリーの家も広くて何より庭がきれいで感動しました。車に乗っていると流れる風景をみて、家がすごくカラフルなことに気がつきました。どこの家も家の前にはきれいな花や植物を植えていて街の美しさを引き立たせていました。



一見ビルばかりのように見えますが街のいたるところに緑があり、こんなに建物があるのにちゃんと緑を植えることができる場所に土地の広さを感じました。食べ物はさすがにアメリカンサイズといわれるだけあって、すごい大きさでした。それはもう食べることができないくらいに。Sサイズといっても日本のMサイズぐらいですし、なにより飲み物はドリンクバーのように何回飲んでもいいようです。すばらしいサービスなのですが残念ながら私には利用する機会がありませんでした。

今回ホストファミリーの皆さん、そしてそのおばあちゃん・おじいちゃん、野球チームの親御さんたち、出会う方々すべてが私にとっての教科書でした。できるだけ吸収しようとしていたのですが、思った以上に伝わらなくて本当につらいときもありました。そんなときにはホストファミリーの方が優しく声をかけてくれて、どれだけ救われたかしれません。



今回ホストファミリーの皆さん、そしてそのおばあちゃん・おじいちゃん、野球チームの親御さんたち、出会う方々すべてが私にとっての教科書でした。できるだけ吸収しようとしていたのですが、思った以上に伝わらなくて本当につらいときもありました。そんなときにはホストファミリーの方が優しく声をかけてくれて、どれだけ救われたかしれません。

うまく話すことができなくて、部屋に閉じこもりがちになっていても決して無理に連れ出すこともなく、そっとしておいてくれました。そんな心遣いは本当にうれしかったです。私は間違えることが嫌で、話すことをしないで黙っていることが多かったのですが、それでは成長しないとしみじみ感じた一週間でした。言葉が分からないとはいえ、声を出さないことには伝わるものも伝わらないし、伝えるチャンスさえ逃

してしまいます。まず何か話してみることが大切だと教わったような気がします。これは何も海外だけに当てはまるものではないと思うのです。日本でも間違えることを恐れて自分の気持ちを言えないことはたくさんあります。それでは何も成長しません。とにかく何か伝えてみよう、今後の自分の人生に生かそうと強く思

いました。この一週間、何も話すことができずに後悔だけが残ったように帰国後は思いました。しかし、言葉を覚えるよりそのことを学んだだけでも成果を挙げたのではないかと今は考えています。こんな大切なことに気付かせてくれたホ

ストファミリーの方々、サンマテオで出会った皆さん、そしてこのような機会を与えてくださった皆様、本当に感謝しています。次にアメリカに行くときは自分の考えが言えるようになっていたいと思っています。本当にありがとうございました。

豊中少年野球チームもサンマテオ市へ遠征に!

2009年8月10日から20日まで、豊中市少年野球チーム一行がサンマテオ市を訪問し、親善交流試合を行いました。1979年から両市の野球チームの相互訪問が始まって以来、豊中市のチームがサンマテオ市を訪れるのは8回目となります。今回訪れたのは豊中市内の少年野球チームから選抜された小学生18人。サンマテオ市の少年との親善交流を果たし、元気に帰国しました。これらの経験は人生の大きな財産になったことでしょう。試合は全5試合が行われ、両チームのプレイヤー達が熱い戦いを繰り広げ、すばらしい成績を残しました。また、少年たちより様々な感想文をいただきましたので、一部抜粋してご紹介します。

試合	球場	豊中	サンマテオ
第1戦	トリンター	12	1
第2戦	ペレスホード	7	2
第3戦	セントラルパーク	3	5
第4戦	セントラルパーク	13	2
第5戦	トリンター	12	1
対戦成績		4勝	1勝

訪れるのは8回目となります。今回訪れたのは豊中市内の少年野球チームから選抜された小学生18人。サンマテオ市の少年との親善交流を果たし、元気に帰国しました。これらの経験は人生の大きな財産になったことでしょう。試合は全5試合が行われ、両チームのプレイヤー達が熱い戦いを繰り広げ、すばらしい成績を残しました。また、少年たちより様々な感想文をいただきましたので、一部抜粋してご紹介します。

試合について

加藤 成充くん 第1試合でクローザーとして投げました。ランナーが3塁に進んだのでどうしようかと思ったけど、みんなが声をかけてくれたので、最後のバッターも三振で終わりました。初めて勝つ気持ちを味わったので、すごくうれしかったです。

野村 勇斗くん ほくは、このチームのメンバーと野球ができたことを一生忘れない。

丹羽 元くん 第3試合、ほくはレフトオーバーを打ったのに負けてしまい、くやしかったです。

大西 紘平くん ダブルヘッターで、第3試合は負けてしまったけれど、第4試合は12対2で勝ちました。2点取られてしまったけれど、うれしかったです。

上田 彰くん 第1試合でホームランを2本打ったので、すごくうれしかったです。それもサク越えだったからです。ほくはサンマテオ市の新聞にのりました。うれしかったです。

吉本 隆一くん 第3試合、先発でとてもうれしかったのに、一気に5点入れられて負けてしまい、ものすごくショックでした。

高田 涼平くん 一番よかったのは暑中、がんばってあせまでかいて練習した結果、4勝1敗と好成績を残したことです。



交流について

大西 竜登くん 新しい仲間に出会い、たくさんの思い出はほくにとって大切な宝物になりました。

田中 晴也くん ほくは外国に行くのが初めてで、ちがう国の人達と野球できるのがうれしかったです。

辻 真之介くん アメリカにホームステイして、アメリカ人といっしょに生活したり、野球をしたりして、日本とはちがう文化を学びました。ホームステイを通して国際交流できたことが、一番うれしいです。

山本 力也くん ホームステイ先の巨大なお父さんに圧倒され、二日間は緊張し、何もしゃべれませんでした。三日目、ほくの英語が通じることがわかり、ファミリーとたくさんの会話ができるようになり、ごはんもたべれるようになりました。

山口 満くん サンマテオの人たちがみんな笑顔で迎えてくれた。

尾上晃太郎くん ホームステイは最初はきんちょうでコミュニケーションができませんでした。そんなほくにもホストファミリーのみなさんはとてもやさしく接してくれました。8日間はあっという間に過ぎて、楽しい思い出をたくさんつくることができました。



観光について

竹村 昇悟くん ドジャース球場とジャイアンツ球場に行き、とても感動しました。ほくもいつかここで試合したいと思いました。

池田 司くん ドジャーススタジアムに行きました。はく力もあってバックスクリーンもすごく大きくてメジャーの球場は改めてすごいと思いました。

川井 雄翔くん ディズニーランドではたくさんのジェットコースターに乗って楽しかったです。夜の花火はすごくきれいだった。

永富 彰くん サンフランシスコ観光でゴールデンゲートブリッジをわたりました。大きくてとてもはく力がありました。

文岡 陵くん ほくは今回初めてアメリカに行きました。5車線ある高速道路に乗って料金所がなくビックリしました。



豊中・サンマテオ姉妹都市親善少年野球 ～30年の歩みと展望～（抜粋）

豊中市少年野球連盟

豊中市少年野球チームは、1979年に初めてサンマテオ市を訪問、親善交流試合を行いました。豊中市からの第1回の訪米は、小学校6年生の選手20名と、桑村氏を団長とする引率随行の大人11名でした。一行はサンマテオ市のみなさんから大歓迎を受け、言語や生活習慣の違いにたじろがず、むしろそれらを好教材として、彼の地の文化、在り方、人の温もりを学びました。

以後、2年毎に往来を継続し、2009年の第8回訪米をもって、30年を経過したことになります。この間、訪米した選手は約160人に達します。来訪されたサンマテオ市の選手もほぼ同じです。交流試合は、1983年の訪米時に6試合をした以外は、サンマテオ市でも豊中市でも5試合ずつ行っています。2009年までのトータルでは75試合をし、豊中チームの38勝33敗4分けです。豊中チームの少年達はよくがんばりました。平素は軟式でやっている彼らが、本場の硬式に引けを取らぬようと、硬式に切り替えた練習を約2週間やり、その厳しさに涙ぐましいほどよく耐えました。その上、英語の日常会話や、サンマテオ市で披露するパフォーマンスの稽古もしました。だから現地のグラウンドでは、落ち着いて軽々とプレーできたのです。その一つ一つを、試合以外の場での友情へと発展させていったのです。まさに国際交流の中で、彼らは大きな人間へと成長しました。これらのことは、サンマテオチームの選手達を豊中へ迎えた時にも、同様に発揮されています。

さて、訪米をした豊中チームの選手による、サンマテオ市の印象は、第1に豊かさでしょう。ホームステイをして下さったお宅には、大概屋外にプールがあったり、あるいはグラウンドがあったり、室内にはビリヤードや卓球の設備があったりして、町内の遊び仲間や、親子、きょうだい、時には3世代で楽しんでいるということです。サンマテオ市に滞在した約7日間のうち、試合の無い日はショッピングや、大リーグの試合やアメリカンフットボールの観戦などに連れて行ってもらっています。また、街の美しさ、明るさ、快適さにも瞠目しています。整然とした街並み、緑濃い庭園、百日紅のよく似合う街路、8月というのに蚊には出会わず、野生のリスがそこかしこで愛らしく遊んでいます。さらに、どこのお宅でも玄関や居間の壁には、家族の写真がたくさん飾ってあります。常に家族を大切に、家族を思う愛、それが近隣を愛し、街を愛し、国を愛し、やがてはその温かさが素晴らしい国際関係へと繋がっていることを、有言無言のうちに学び取っています。豊中チームの少年達の中には、時には熱を発したり、食欲不振に陥ったりする者もいますが、そんな時のホームステイのファミリーの方々の対応には感謝のほかありません。随行員には警察署や保育所、福祉センター、消防署、図書館などの市の施設を見学させてくださったりします。日本庭園があって錦鯉が泳いでいて、姉妹都市への親しみを市民が味わえるように配慮されています。

豊中にお迎えする時にも、ホームステイのご家族には、豊中の8月の暑さや、食事や、休日のおもてなしなど、随分な心遣いをして頂いておりますし、当連盟としてもさまざまなおもてなしをしています。

30年の間には、両市とも、かつて選手であった少年が、今や保護者となり、指導者となって再会することや、かつて戦い、親しんだ選手の名前が分野を問わず、有名人として響いてくることがあります。とても懐かしく、嬉しい事です。試合の場所や日時を耳にされ、応援に来てくださる日系や同邦の方々のごことありがたく、励みになります。

さて、姉妹都市といえば、文化交流や親善を目的として結び付いた、国際的な都市です。豊中市とサンマテオ市は、その優しさ・親しさをいよいよ深め、そして生活習慣・歴史・文化等の相違点の中から、自分のものとして取り入れていくことは何かないか、そんなふうによくのことを相手から学び取っていくところにも姉妹都市の大きな意義があります。

第38回 高校生英語弁論大会

2010年1月30日、豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催の第38回高校生英語弁論大会がとよなか国際交流センター（現 豊中市役所別館）で開催され、7校19人の高校生の皆さんが参加しました。



豊中市長賞
「私の友達 ダニー」
梅花高等学校
野村 幸恵さん



サンマテオ市長賞
「変わって学んだこと」
梅花高等学校
井手 ちひろさん



国際ソロプチミスト特別賞
「アメリカで見つけた
踊る楽しさ」
梅花高等学校
藤田 菜さん



優秀賞
「教科書では学べないこと」
豊中高等学校
上原 瑛美さん



優秀賞
「80歳の親友」
豊島高等学校
久保 絵莉菜さん



審査員特別賞
「厳しいおじいちゃん」
梅花高等学校
川西 彩加さん

The 38th Annual English Speech Contest

審査員は昨年に引き続き、千里金蘭大学教授のジュディ・ガーナントさん、大阪女学院大学教授のブライアン・ティーマンさん、大阪女学院大学准教授のウィリアム・クラインさん、当協会監事の川合隆子さんの4人をお願いしました。

大会終了後、審査員からは「スピーチの速度が速すぎて語尾が消えてしまったり、ゆっくりすぎて、聞いている側が疲れてしまうような場面もあったのでそれが残念でした。スピーチでは話し方がとても大事だと改めて痛感しました。内容には両親、世界の問題、高校生らしいオリジナルなアイデアなど、バラエティ豊かでしたし、審査はとても難しかったのですが、楽しかったです。」との講評をいただき、和やかな雰囲気の中で、閉会しました。なお、豊中市長賞受賞の野村さんとサンマテオ市長賞の井手さんは、今年の8月4日から約1週間、親善使節としてサンマテオ市に派遣される予定です。

※国際ソロプチミスト特別賞は、国際ソロプチミスト豊中・千里からの寄付により設けられています。

豊中市長賞の野村さんは、一人の女の子に出会ったことで英語が好きになり、意思や意見を持つ大切さを学ぶことができたと言いました。

サンマテオ市長賞の井手さんは、父の転職を機に家族の生活が一転し、改めて感じた家族のきずなと幸せ、感謝の気持ちを言いました。

国際ソロプチミスト特別賞を受賞した藤田さんは、アメリカで受けたレッスンから楽しい気持ちで踊ることを知り、

自分を表現できるようになりたいと将来の夢を言いました。上原さんはマレーシアでのボランティア活動で、学び、経験した事を将来貧しい国の人々

を助けるために役立てたいと夢を言いました。久保さんは、メス猫のトラコとのふれ合いから、大切な人生の送り方を学んだ

気がすると、感性豊かに言いました。川西さんは、とても厳しい面がある祖父は、最後まで人に対する思いやりを持ち続け

た、とても温かい心を持つ人だったと祖父との思い出を言いました。

た、とても温かい心を持つ人だったと祖父との思い出を言いました。

た、とても温かい心を持つ人だったと祖父との思い出を言いました。

た、とても温かい心を持つ人だったと祖父との思い出を言いました。



新市長はジョン・リーさん

2009年12月にサンマテオ市議会の改選があり、
新市長はジョン・リーさんに決定しました。
新しい人事は以下のとおりです。



■市 長：ジョン・リー	John Lee
■副市長：ジャック・マシューズ	Jack Matthews
■議 員：ブランド・グロット	Brandt Grotte
■議 員：デイビッド・リム	David Lim
■議 員：ロバート・ロス	Robert Ross

■米国サンマテオ市姉妹都市協会会長：ダニエル・ハリス Daniel Harris

Sister City Association of Toyonaka-San Mateo

み かわ かん じ
故 三 河 寛 治

前会長を偲んで



昨年（2009年）5月26日に逝去され、
はや1年になろうとしています。1997年（平
成9年）に四代目に就任されて以来、11
年間の長きに亘り、当協会発展、国際
親善のため寄与いただきました。その
功績に心から感謝の意を表するとともに、
謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成22年度 事業計画

- 1 第38回高校生英語弁論大会成績優秀者2名の
サンマテオ市派遣
 - 日程：平成22年8月4日～11日（8日間）
 - 派遣者：豊中市長賞 野村 幸恵さん
サンマテオ市長賞 井手 ちひろさん
- 2 第39回高校生英語弁論大会の開催
 - 日時：平成23年1月末
 - 場所：とよなか国際交流センター
- 3 広報活動の推進
 - 姉妹都市提携ニュース（第40号）の発行
- 4 その他協会の目的達成のために必要な活動
 - 小学生を対象にした姉妹都市の教材資料の
収集と提供